奉祝 令和御大典 御神幸祭

天王祭

令和五年

平安時代・延暦十四年創建

素盞雄神社

東京都荒川区南千住6－60－1
電話 03(3891)8281
https://www.susanoo.or.jp

6月3日(土) 6月4日(日) 神輿振り
6月3日(土) 6月4日(日) 渡御行列

3日 18時奉遷
4日 8時発輿
原稲荷御旅所

4日 10時45分引継ぎ
荒川6丁目ひろば館

3日 14時45分 引継ぎ
町屋駅前

3日 13時40分
小松電気

アクロスあらかわ
4日 昼御饌祭
12時30分

荒川区役所
荒川消防署

荒川警察署

第三峡田小
3日 11時20分

NTT荒川
3日 10時45分引継ぎ

3日 7時宮出し
4日 19時宮入り
素盞雄神社

3日 8時引継ぎ

南千住警察署

大関横丁
4日 15時引継ぎ

正庭町会会館
3日 12時20分

9時30分

町屋五丁目
町屋六丁目
町屋七丁目
町屋四丁目
町屋三丁目
町屋八丁目
町屋二丁目
町屋一丁目
荒川六丁目
荒川七丁目
荒川八丁目
荒川四丁目
荒川二丁目
荒川三丁目
荒川自然公園
三河島公園
荒川一丁目
南千住六丁目
南千住七丁目
南千住一丁目
南千住五丁目
南千住二丁目
三ノ輪二丁目
三ノ輪一丁目
東日暮里三丁目
東日暮里二丁目
東日暮里一丁目
西日暮里一丁目
日本堤二丁目
隅田川
千住大橋
荒木田
朝日信金
セブンイレブン
町屋第三児童遊園
町屋第二児童遊園
第七峡田小
町屋
ライオンズマンション
慈眼寺
町屋二
東尾久三
都電
京成電鉄
小松電気
マークスタワー
赤札堂
町屋
花の木
黒川学園
三菱電機ビルソリューションズ
真昌寺
セブンイレブン
青色申告会館
第二峡田小
ゆいの森
三河島山車人形熊坂長範
観音寺
宮地ロータリー
城北信金
荒川外科肛門科医院
サンクリニック
関川病院
三河島稲荷
荒川郵便局
あらかわエコセンター
関口ビル前十字路
千住軒
間道睦神酒所
荒川区役所前
都電三ノ輪橋
みずほ銀行
都立荒川工業高
荒川消防署南千住出張所
GS
富士木材
城北信金
浄閑寺
千住間道
日光街道
柳通り
南千住仲通り
小塚原通り
宮入り道中
明治通り
正庭通り
慈眼寺通り
尾竹橋通り
荒川西中央通り
荒川中央通り
藍染川通り
明治通り
こばと商店街
新三河島
三河島
JR常磐線
東京メトロ日比谷線
つくばエクスプレス
南千住
三ノ輪

渡御日程

六月三日(土)
御本社宮出し 午前七時
原稲荷御旅所奉遷 午後六時

四日(日)
原稲荷御旅所発輿 午前八時
御本社宮入り道中 午後五時

奉祝行事

三河島山車人形 稲田姫
素盞雄神社華道茶道奉賛会
素盞雄神社天王太鼓会

※感染症などの社会状況の変化により変更の場合もあります。

天王祭

奉祝 令和御大典 神幸祭

大祭日程

五月下旬
御旅所清祓式斎行（原稲荷）
稲田姫飾付け（神楽殿）

五月三十一日（水）
午後六時三十分　宵宮祭斎行

六月一日（木）
午前十時三十分　例大祭斎行
本社責任常任・三地区正副委員長
総代・祭禮委員・来賓招待者参列
午後六時　御本社神輿御神霊移し斎行
本社責任常任・三地区委員長
三地区猿田彦命・九番組参列

二日（金）
御本社発輿祭斎行
本社責任常任・三地区正副委員長
町屋地区猿田彦命・九番組参列
氏子全町高張提灯　西鳥居前集合
《町屋方宮出し》
西鳥居前《南千住三之輪方引継ぎ》
小塚原通り・千住間道神輿振り
千住間道ＮＴＴ荒川前《三河島方引継ぎ》
千住間道・尾竹橋通り神輿振り
都電町屋駅前《町屋方引継ぎ》
尾竹橋通り神輿振り
御旅所奉遷（原稲荷）

三日（土）
午前六時三十分　御旅所発輿祭斎行
本社責任・町屋地区正副委員長・総代
町屋地区猿田彦命・九番組参列
午前七時　《町屋地区猿田彦命・九番組参列
午前八時　西鳥居前《南千住三之輪方引継ぎ》
午前十時四十五分　千住間道・尾竹橋通り神輿振り
午後二時四十五分　都電町屋駅前《三河島方引継ぎ》
午後六時　御旅所奉遷（原稲荷）

四日（日）
午前七時三十分　御旅所発輿祭斎行
本社責任・町屋地区正副委員長・総代
町屋地区猿田彦命・九番組参列
午前八時　発輿　町屋地区渡御
午前十時四十五分　荒川六丁目ひろば館前《三河島方引継ぎ》
三河島地区渡御
午後十二時三十分　《昼御饌祭斎行》アクロスあらかわ
本社責任・三河島地区正副委員長・総代
三河島地区猿田彦命・九番組参列
渡御供奉員昼食
午後三時　大関横丁《南千住三之輪方引継ぎ》
三之輪南千住地区渡御
午後五～七時　《御本社宮入り道中》
氏子全町高張提灯　小塚原通り集合
小塚原通り神輿振り・宮入り
還御　本社責任常任・三地区正副委員長
総代・祭禮委員・九番組　手締め　解散
帰納祭　本社責任常任・三地区正副委員長参列

以上

三地区正副祭禮委員長

南千住三之輪地区
委員長　青木　健志　殿
副委員長　鈴木　誠　殿
稲石　昭一郎　殿
菅谷　安男　殿
柳　康夫　殿
杉山　六郎　殿
木下　悦希　殿
若松　哲雄　殿

三河島地区
委員長　田所　新一郎　殿
副委員長　齋藤　隆雄　殿
江田　憲勇　殿
三浦　裕一　殿
桶谷　輝明　殿
橋本　郁雄　殿
島田　正義　殿
伊藤　亮一　殿

町屋地区
委員長　佐久間　實　殿
副委員長　工藤　斉　殿
大内　敏裕　殿
関　幸一　殿
藤本　広一　殿

猿田彦命奉仕者

南千住三之輪地区　甕
三河島地区　中西　明彦　殿
町屋地区　木内　康寛　殿
文　殿

御神輿渡御行装

地元高張
先導（地区正副委員長）
地元高張
木遣方
大太鼓
白丁
真榊
白丁
御社銘旗
白丁
錦旗
白丁
錦旗
白丁
猿田彦命
介添
稚児行列
手古舞行列
（町屋地区・三河島地区）
（南千住三之輪地区）
先導神職
○（騎馬）
鉄杖
○○（地元）
道中祓
○○○○大麻（神職）切麻
笹団子
囃子方
白丁
御神輿
後衛神職
○（騎馬）
本社役員・総代・祭禮委員

●御本社大神輿（鳳車）の高さは車から鳥まで十三尺、
間口六尺七寸、奥行九尺、引手五尺三寸

宮迎え

方屋出し
町宮
西鳥居

町屋　南千住　三之輪　三河島
十五ヶ町　十四ヶ町　三十二ヶ町
町屋　南千住　三之輪　三河島
荒川ふるさと文化館

六月は旧暦で夏。天王祭は、人や物の行き来が盛んな街道の夏に流行する疫病を、激しい神輿振りにより、御祭神の神威をより一層振り起こして祓う悪疫退散・除災招福・郷土繁栄を願う祭禮です。

三年に一度の御神幸祭では、御本社神輿が南千住・三之輪、三河島、町屋の六十一ヶ町にわたる氏子区域を渡御します。大・中・小、三基そろった宮神輿二天の神輿振りから、家族・仲間・郷土の地域共同体意識の構築を目指します。

《御本社大神輿》

現在の神輿は、明治十年、十三代浅子周慶による作。重量千貫の神輿を、四間半（8.1ｍ）の長柄二本（二天棒）で左右に振る「神輿振り」は大変勇壮です。

この荒々しい神輿振りにより損傷が激しく、昭和六十三年昭和天皇米寿の佳き歳に大修繕を行いました。千葉県行徳の浅子神輿店を出発した大神輿は、十数艘の船渡御により東京湾を経て隅田川を上り、古式ゆかしく宮納めしました。

《鳳車》

大正十四年調製の鳳車は、先の戦災による損傷が激しく、平成二年、天皇陛下御即位御大典（当時）を奉祝し、日光社寺文化財保存会に修繕を依頼しました。日光東照宮等を手掛ける名匠名工により見事に修繕完成し、日光東照宮御神前において神輿振りを奉納いたしました。

《御本社中神輿》

大神輿は、氏子区域の若睦選抜によってのみ担がれます。伝統を護り次代に引き継ぐことを祈念し、女性や年少の者も担ぐことができるようにと、平成七年、皇太子殿下御成婚（当時）を奉祝し調製しました。

《御本社子供神輿》

幼少時からの体験を通じた伝統の継続・後継の育成を目指し、秋篠宮悠仁親王殿下御誕生を奉祝し、平成二十年に調製しました。

文化財保持者

氏子みんながタイトルホルダー

平成30年、天王祭は荒川区の無形民俗文化財に登録されました。この郷土の文化を護り伝える担い手は、千貫神輿・神輿振りに代表される威勢のいい担ぎ手だけではありません。掛け声・手拍子のお爺さんお婆さん、山車を曳くお子さんたち、割烹着姿の婦人部や交通整理に徹してくださる方、そして、天王祭の歴史を紡いできた先人たち。老いも若きも男女の区別もなく、氏子みんながタイトルホルダー（文化財保持者）です。

当社ＨＰでは天王祭に関する様々の情報をご紹介しています
https://susanoo.or.jp/tennosai/index.html